

取扱説明書

エンジン式 オイルレス

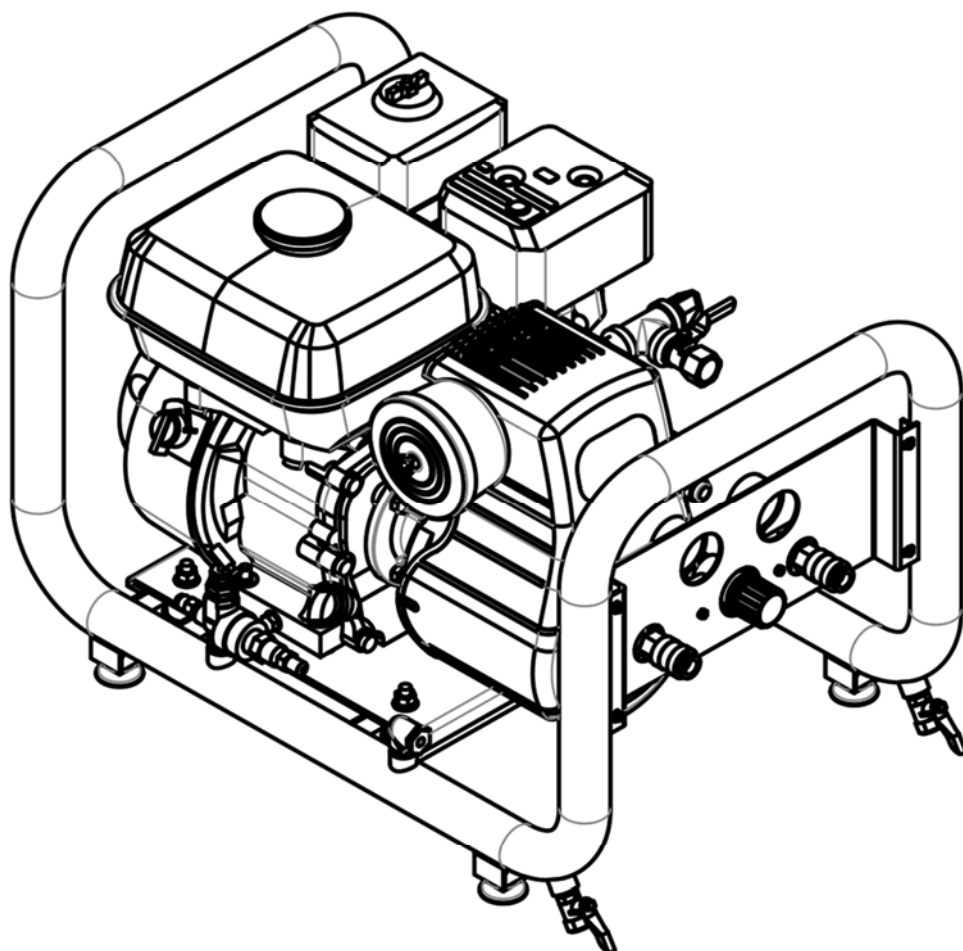
エアコンプレッサー 3 L

AirWAVE

型式：GM-03ES

JAN：4536619107664

この度は、お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。この取扱説明書は、本製品の組立と使用上の注意及び警告事項について記載しています。本製品をご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、事故が起こらないよう、記載内容にしたがって正しくお使いください。また、お読みになった後も、必要な時にいつでも調べられるよう、すぐに取り出せる場所に大切に保管してください。



目次

表紙	1
目次	2
安全上のご注意	3
製品の外観・性能に関する注意事項.....	4
製品の外観・性能に関する注意事項②.....	5
製品の外観・性能に関する注意事項③.....	6
仕様	7
各部名称.....	8
操作方法（運転前確認）	9
操作方法（運転前確認）②.....	10
操作方法（エンジン始動方法）	11
操作方法（コンプレッサー運転）.....	12
保守・点検.....	13
保守・点検②.....	14
トラブルシューティング（エンジンが始動しない場合）	15
トラブルシューティング②（エンジンが始動しない場合）	16
トラブルシューティング③（コンプレッサー）	17
トラブルシューティング④（コンプレッサー）	18
検査・点検記録表（定期点検）	19
保証書	20

1. 安全上のご注意 本製品を安全にお使いいただくため、必ずお読みください

商品をご使用前にこの安全上のご注意と本説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。

 警告	警告	誤った使い方をしたときに、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
 注意	注意	誤った使い方をしたときに、人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。	
 警告	エンジンの排気ガスには、無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。屋内・倉庫等の半密閉空間では使用しないでください。	 注意	使用環境に応じて、保護メガネ・耳栓・安全手袋・安全靴・防塵マスクなどの保護具を着用してください。
 警告	使用中は、子供や使用者以外の方を本製品に近づけないでください。本体が高温となるため、触れると火傷やケガの原因となります。	 注意	本製品に貼り付けている重要ラベルを、汚したり、剥がしたりしないでください。使用方法を誤るとケガをする恐れや事故の原因となります。
 警告	本来の用途（圧縮空気の供給）以外には使用しないでください。本体故障、ケガをする恐れや事故の原因となります。	 注意	長髪・アクセサリー・だぶついた服装で使用しないでください。
 警告	修理技術者以外は、分解・改造・修理をしないでください。異常作動、過熱、発火、火災など、重大な事故の原因となります。	 注意	使用前には本体・ホース・各部に異常や損傷がないか点検してください。損傷がある場合は使用しないでください。
 警告	過労と思われるときや、飲酒や薬物を服用しているときには、絶対に使用しないでください。	 注意	エアーホースやエアー工具は確実に接続し、移動時は必ず取り外してください。
 警告	圧縮空気を人や動物の呼吸用、医療用、ペット水槽などには絶対に使用しないでください。	 注意	使用後はドレンコックからエアーと水分を抜いてください。
 警告	ガソリン・シンナーなどの可燃物や可燃性ガスの近くでは使用しないでください。屋内・換気の悪い場所では使用しないでください。	 注意	平坦で安定した場所に設置してください。また壁や周囲から1 m 以上離してください。
 警告	安全弁・最高圧力の設定は絶対に変更しないでください。安全弁が作動した際は吹出口に近づかないでください。	 注意	使用中・使用直後は高温部（エンジン・吐出管・金属部）に触れないでください。
 警告	エアー配管の接続・取り外しは、必ずタンク内圧力を0 MPa にしてから行ってください。	 注意	使用しないときはエアー工具を外し、施錠できる場所で保管してください。

2. 製品の外観・性能に関する注意事項

本製品はエンジン式エアーコンプレッサーです。必ず取扱説明書を熟読し、正しい操作方法で使用してください。



高温注意
HOT SURFACE

■ 使用中および使用直後は、エンジン部だけでなくコンプレッサー本体全体（特に金属部分）が非常に高温になります。使用者以外の方や子供を本製品に近づけないでください。高温部に触れると、火傷やケガの原因となります。



■ エンジンの排気ガスには、無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。屋内、車庫、倉庫、テント内、半密閉空間では絶対に使用しないでください。換気を行っても使用できません。

1. 使用時の注意

- ■使用前や定期的に、各部に異常、不具合、損傷・破損がないか点検してください。異常、不具合、損傷・破損がある場合は使用を中止し、お買い求めの販売店、または弊社までご連絡ください。
- ■本製品を安全に使用するため、使用環境に合わせて、安全手袋、耳栓やイヤーマフ、保護メガネ、防塵マスク、安全帽、安全靴、作業ツナギ、長袖・長ズボンなどの保護具を着用してください。
- ■以下の服装で使用するのは、やめてください。周囲に引っ掛かったり、巻き込まれたりするなど、ケガをする恐れや事故の原因となります。
 - 長髪を束ねず、そのままの状態にしている。
 - ネックレスなどの装身具を身に付けている。
 - サイズの極端に大きい服装、衣類を着用している。
- ■作業に集中すると、周囲への安全確認が疎かになり、事故を招く可能性があります。作業手順や周辺の状況を、よく確認してください。
- ■使用者以外、使用場所や保管場所に近づけないでください。特に子供や幼児は、危険な行動をとることがあるので、絶対に近づけないでください。
- ■使用方法を誤ると、火災や爆発が生じる恐れがあります。必ず消火器を準備してください。
 - 消火器が準備できない場合は、使用しないでください。
- ■製品改良のため、主要機能および形状などは、予告なく変更する場合があります。購入製品と改良品は、性能などが異なる場合がありますので、予めご了承ください。
- ■水を掛けて、洗わないでください。本体故障の原因となります。

3. 製品の外観・性能に関する注意事項②

2. 点検・保管

- ■ 損傷や異常が確認された場合は、使用せず、お買い求めの販売店、弊社までお問い合わせください。
- ■ 保管時には、燃料やオイルなどの石油製品を付着させないでください。プラスチックやホースなどの部品を劣化させる恐れがあります。
- ■ 保管するときは、エアーツールを全て取り外してください。エアーツールに引っ掛かるなど、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ■ 使用しないときは、施錠のできる場所に保管してください。特に子供や幼児は危険な行動をとることがあるため、絶対に近づけないでください。
- ■ 高温、多湿、結露する場所、塵やホコリがあり掃除されていない場所に保管すると、本体故障の原因となります。寒暖差のない常温で、清潔な場所に保管してください。

3. 設置場所・使用環境

- ■ ガソリン・軽油・灯油などの燃料、シンナーなどの可燃性・揮発性の高い液体がある場所に設置しないでください。発火、火災、爆発など、重大な事故の原因となります。
- ■ 柔らかく軟弱な床面、凹凸のある床面、傾斜のある床面などに設置しないでください。ガソリン漏れやオイル漏れの原因になります。
- ■ 使用上障害となり、整理整頓されていない場所で使用しないでください。本体故障、損傷・破損、使用者が転倒するなど、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ■ 風通しが悪く、換気のできない場所に設置しないでください。本体温度上昇に伴う性能低下、本体故障、火災の原因となります。
- ■ 壁や設置物より 1 m 以上離して設置してください。冷却不良により、性能低下、本体故障、火災の原因となります。
- ■ ゴミやホコリ、粉塵が多くある場所に設置しないでください。エアークリーナーの詰まり、性能低下、本体故障、火災の原因となります。
- ■ 設置環境温度は 0℃～40℃です。
 - 0℃を下回ると、凍結により作動不良の原因となります。
 - 40℃を超えると、エンジンの焼き付きや火災の原因となります。
- ■ 直射日光下、暖房器具や温度上昇する機器の側で使用しないでください。本体温度上昇に伴う性能低下、本体故障、火災の原因となります。
- ■ 本製品は屋外専用です。屋内や換気の悪い場所では使用しないでください。
- ■ 防滴・防水仕様ではありません。水中や水の掛かる恐れのある場所、多湿となる恐れのある場所では使用しないでください。本体故障、事故の原因となります。

4. 製品の外観・性能に関する注意事項③

4. エアー配管・圧力に関する注意事項

- ■部品の接続および取り外しは、必ずタンク内圧力を 0 MPa にしてください。接続不良を招く可能性や、勢いよく外れ、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ■最高使用圧力は、基準値 0.98 MPa (10 kgf/cm²) を超えるように絶対に調整しないでください。
- ■安全弁作動圧力値を、絶対に調整しないでください。
- ■安全弁が作動すると、勢いよく圧縮空気が吹き出し、大きな音を伴いますので、近づかないでください。顔などを近づけると、ケガをする恐れや事故の原因となります。

5. エアーホース・エアー工具に関する注意事項

- ■エアーホースに損傷（キズや被覆の破れなど）がある場合は、使用を中止してください。
- ■移動するときは、必ずエアー工具、エアーホースを外してください。
- ■エアーホースが、周囲に引っ掛かったり、開閉部や可動部に挟まったり、回転部に巻き込まれないよう、取り回しに注意してください。
- ■各機器の接続方法を、間違わないでください。
- ■圧縮空気は、強い圧力で吹き出すので、人や動物に向けしないでください。
- ■エアーカプラーからエアー工具側の雄エアーカプラーを取り外すときは、しっかり確実に持ってください。エアーカプラーを持たない状態で取り外すと、エアーホースの内圧により、勢いよく飛んでくる恐れがあり、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ■エアークリーナーは、必ず取り付けてください。ゴミやホコリ、粉塵などが吸入され、本体故障の原因となります。
- ■圧縮空気は、水分を含みます。タンク内のサビを防止し、タンク内圧力を正常に保つため、使用後はドレンコックを緩め、必ずタンク内の圧縮空気と水分を抜いてください。
- ■吐出口の最高使用圧力（0.98 MPa）を超えて使用しないでください。
- ■エアーホースやエアー工具を脱着する際は、必ずタンク内の圧縮空気を抜いてから作業してください。

6. 高温部に関する注意事項



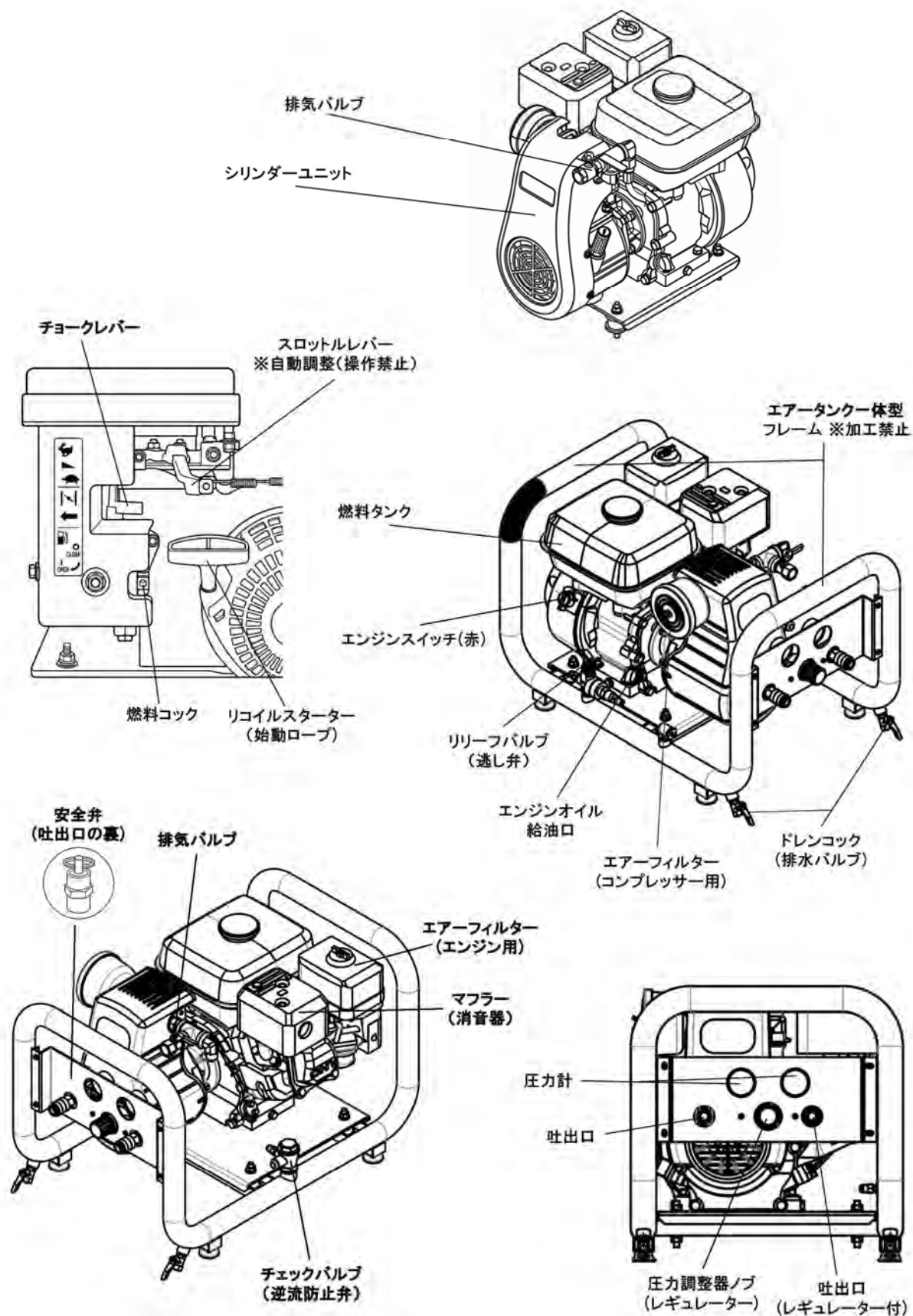
- ■使用中および使用直後は、エンジン部だけでなくコンプレッサー本体全体（特に金属部分）が非常に高温になります。使用者以外の方や子供を本製品に近づけないでください。高温部に触れると、火傷やケガの原因となります。

5. 仕様

型式		GM-03ES
商品名		エンジン式 オイルレスエアーコンプレッサー 3 L
JAN		4536619107664
本体寸法		(約)幅 620×奥行 405×高さ 410 mm
重量		(約)35 kg
エアー	最高圧力	0.98 MPa (10 kgf/cm ²)
	吐出量	178 L/min (0.62 MPa 時)
	充填時間	本体 3 L : 約 10 秒(0.98 MPa) 30 L 補助タンク接続時 (総容量 33 L) : 約 1 分 50 秒(0.98 MPa)
	タンク容量	3 L
	吐出口	2 口 カプラ Rc1/4 (1 口レギュレーター付)
エンジン	原動機	EX13 4-STROKE エンジン
	起動方式	リコイル起動方式
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	定格出力	4.0 PS/3300rpm
	回転数 (自動切替)	高速運転時 : 3300rpm 低速運転時 : 2900rpm
	燃料タンク容量	2.3 L
	エンジンオイル容量	0.6 L 4 サイクル用エンジンオイル (5W-30)
連続運転時間		約 5 時間 (無負荷時) ※使用環境や負荷などにより異なります
付属品		本体×1、エアーフィルター×1
生産国		台湾
メーカー保証		6 ヶ月

※本書に記載されている内容および製品の仕様、外観、付属品などは、製品改良のため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

6. 各部名称



7. 操作方法（運転前確認）

1. 運転前確認

作業を開始する前に、必ず P3～P6 の「安全上のご注意」

および「注意事項」をよくお読みください。



高温注意
HOT SURFACE

■ 使用中および使用直後は、エンジン部だけでなくコンプレッサー本体全体（特に金属部分）が非常に高温になります。使用者以外の方や子供を本製品に近づけないでください。高温部に触れると、火傷やケガの原因となります。



■ エンジンの排気ガスには、無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれています。屋内、車庫、倉庫、テント内、半密閉空間では絶対に使用しないでください。換気を行っても使用できません。

※作業前に手袋等の保護具を装着してください。

⚠ 点検・整備前の注意

点検・清掃・整備を行う前に、エンジンを停止し、燃料コックを閉じてください。エンジンおよびコンプレッサーが十分に冷えたことを確認し、エアータンク内の圧力を 0 MPa にしてください。誤始動を防ぐため、点火プラグキャップを取り外してください。

点検・清掃・整備終了後は、点火プラグキャップを確実に取り付けてください。

⚠ 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、エンジンを停止し、十分に冷ましてください。火気や喫煙場所の近くでは補給しないでください。燃料を入れ過ぎないでください。燃料をこぼした場合は完全に拭き取り、乾燥してからエンジンを始動してください。補給後は燃料キャップを確実に締めてください。

8. 操作方法（運転前確認）②

コンプレッサー（シリンダーユニット）

- **エアークリーナーの確認：**取り付けられているかを確認し、汚れがひどい場合は清掃してください。シリンダーユニットのエアーフィルターを吸入口へ確実にねじ込んでください。
- **エアー漏れ：**吐出口、レギュレーター周辺からエアー漏れがないか確認してください。
- **各部のゆるみ・破損：**吐出口、レギュレーターにゆるみがないか確認してください。
- ※エアークリーナーは、必ず取り付けてください。ゴミやホコリ、粉塵などが吸入され、本体故障の原因となります。

エンジン（EX13）

- **各部のゆるみ・破損：**ボルトやナットのゆるみがないか確認し、必要に応じて増締めしてください。
- **エンジンオイル：**オイル量と汚れを確認し、不足していれば補給、汚れていれば交換してください。
- **燃料：**残量を確認し、無鉛レギュラーガソリンを補給してください。
- **漏れ：**燃料やオイルの漏れがないか確認してください。
- **周囲の安全・異常音：**周囲の安全を確認し、運転中に異常な振動や音がないか注意してください。

2. 使用後確認

- **清掃：**付着したホコリやゴミを取り除いてください。
- **排水：**ドレンコック（排水バルブ）を開き、タンク内の水分を排出してください。
- **エアー排出：**エアータンク内の圧縮空気を抜いてください。

※タンク内に水分が残っていると、内部が錆び、エアータンクの寿命低下や故障の原因となります。

△ 運搬時の注意

運搬時はエンジンを停止し、燃料コックを「CLOSE（閉）」にしてください。本製品が十分に冷えたことを確認し、水平な状態で確実に固定してください。長距離運搬時は、燃料タンクおよびキャブレター内の燃料を抜いてください。

9. 操作方法（エンジン始動方法） 始動しない場合は P15・16 参照

① エンジンオイルの確認

- ・オイル給油口キャップ（オイルゲージ一体型・スクリュー式）を外します
- ・オイルゲージをウエスで拭き取り、ねじ込まずに差し込んでオイル量を確認してください
- ・オイル量が上の刻みまであることを確認してください

※エンジンオイルは出荷時に注入済みです

※水平な場所で確認してください



② 燃料の確認

- ・燃料タンクのカソリンがフィルターの半分を超えていないことを確認してください

※自動車用無鉛レギュラーガソリンをご使用ください



1
燃料コックを OPEN にします



2
チョークレバーを左に引きます



3
シリンダー横の排気バルブの赤いコックを開けます



4
赤いエンジンスイッチをオンにします



5
リコイルを軽く引っ張り、重みを感じたら強く引きエンジンを始動させます



6
エンジンの回転が安定するまで半チョークにします（中間位置まで戻す）



7
安定したら、チョークレバーを右に戻します



8
シリンダー後ろの排気バルブの赤いコックを閉めます

1～8の手順でエンジン始動は完了です。

※再始動時（暖機後）は、チョークレバーを右へ戻してからリコイルを引いてください。チョークの引きすぎは燃料が濃くなり、始動不良の原因となります。

※使用時は暖気後、チョークレバーを必ず右へ戻してください。引いた状態（左）のまま使用すると、回転不安定やエンジン停止の原因となります。

※エンジンが始動しない場合は、タンク内のエア圧を抜き、排気バルブのコックを開いて、エンジン始動の手順を行ってください。

10. 操作方法（コンプレッサー運転）

1. コンプレッサー（エンジン）運転

- ① エンジン始動と同時にコンプレッサーが作動し、エアータンクへ圧縮空気を充填します。
- ② タンク内圧力が **0.98 MPa** に達すると、エンジンは自動で低速回転となり待機運転します。
- ③ タンク内圧力が **0.78 MPa** まで低下すると、エンジンは自動で高速回転となり、再び充填運転を開始します。

※リリーフバルブ（逃し弁）から充填中はエアーが少量排出されます。

※スロットルレバー（回転調整）は自動制御です。手で操作しないでください。

2. エアーホース・エアー工具の使用

- ① 吐出口カプラ：Rc1/4（PT1/4）対応のエアーホースをご使用ください。
- ② エアーホースを確実に接続し、接続部からエアー漏れがないことを確認してください。
- ③ エアー工具の使用圧力に合わせて、レギュレーターで吐出圧力を調整してください。
- ④ エアータンク内の圧力が十分に上がってから使用してください。

※内径の細いホースや極端に長いホースを使用すると、圧力損失によりエアー工具の性能が十分に発揮できない場合があります。

※吐出口の最高使用圧力（0.98 MPa）を超えて使用しないでください。

※エアーホースやエアー工具を脱着する際は、必ずタンク内の圧縮空気を抜いてから作業してください。

3. コンプレッサー（エンジン）停止

- ① エンジンスイッチを「OFF」にしてください。
- ② 燃料コックを「OPEN（開）」から「CLOSE（閉）」に切り替えてください。
- ③ ドレンコック（排水バルブ）を開き、エアータンク内の圧縮空気をタンク内の水分と一緒に排出してください。

※保管時は、タンク内の圧縮空気を完全に抜き、0 MPa の状態で保管してください。

- ④ 付着したホコリやゴミを取り除いてください。

※1ヶ月以上使用しない場合（保守・点検② P14 参照）

エンジンスイッチで停止せず、燃料コックを「CLOSE（閉）」にして、キャブレター内の燃料を使い切りエンジンを自然停止（エンスト）させてください。

また、燃料タンク内のガソリンも使い切るか、抜き取ってください。

ガソリンを長期間残したまま保管すると、燃料が劣化し、キャブレターの詰まりや始動不良などの原因となります。

11. 保守・点検

機械を良好な状態に保つため、以下のスケジュールで保守・点検を行ってください。

日常点検（運転前）

コンプレッサー（シリンダーユニット）

- **各部のゆるみ・破損：** 吐出口、レギュレーターにゆるみがないか確認してください。
- **エアークリーナーの確認：** 取り付けられているかを確認し、汚れがひどい場合は清掃してください。
- **エアー漏れ：** 吐出口、レギュレーター周辺からエアー漏れがないか確認してください。

エンジン（EX13）

- **各部のゆるみ・破損：** ボルトやナットのゆるみがないか確認し、必要に応じて増締めしてください。
- **エンジンオイル：** オイル量と汚れを確認し、不足していれば補給、汚れていれば交換してください。
- **燃料：** 残量を確認し、無鉛レギュラーガソリンを補給してください。
- **漏れ：** 燃料やオイルの漏れがないか確認してください。
- **周囲の安全・異常音：** 周囲の安全を確認し、運転中に異常な振動や音がないか注意してください。

使用後点検

- **清掃：** シリンダーユニットに付着したホコリやゴミを取り除いてください。
- **エアー排出：** エアータンク内の圧縮空気を抜いてください。
- **排水：** ドレンコック（排水バルブ）を開き、タンク内の水分を排出してください。

※タンク内に水分が残っていると、内部が錆び、エアータンクの寿命低下や故障の原因となります。

定期点検項目

コンプレッサー（シリンダーユニット）

- **エアータンクの点検：** エアータンクに錆・変形・亀裂・腐食がないか確認してください。
- **ホース・カプラ点検：** エアーホース・カプラに亀裂・摩耗・エアー漏れがないか確認してください。
- **圧力計点検：** 指針が 0 MPa へ戻るか、破損等がないか確認してください。
- **防振ゴム点検：** エンジン・コンプレッサー脚ゴム部の防振ゴムに亀裂や破損がないか確認してください。
- **冷却フィンの清掃：** シリンダーユニットの冷却フィンに付着したホコリやゴミを取り除いてください。
- **各ボルトの増締め：** 初回 20 時間運転後、その後は 100 時間ごとに各部のボルト・ナットを点検し、必要に応じて増締めしてください。

※振動によりボルト・ナットが緩むことがあります。

12. 保守・点検②

エンジン (EX13)

- **エンジンオイルの交換**：初回は **20 時間運転後**、2 回目以降は **100 時間ごと**に行います。
EX13 のオイル規定量は **0.6 L** です。
- **点火プラグの清掃・調整**：**100 時間ごと**にカーボンを清掃し、電極間隙を **0.6～0.7 mm** に調整してください。推奨プラグは **NGK BR-6HS** 相当です。
- **エアークリーナーの清掃**：**50 時間ごと**（汚れがひどい場合は頻繁に）清掃してください。
ウレタンフォーム：洗油で洗浄後、混合油（灯油 3：オイル 1）に浸して固く絞ってください。
紙エレメント：軽く叩くか、内側から圧縮空気を吹き付けて汚れを落としてください。
- **燃料カップの清掃**：燃料カップ内に水やゴミが溜まっていないか確認し、あれば洗浄してください。
- **燃料フィルターの清掃**：フィルターの詰まり・ゴミを清掃してください。
- **燃料パイプの交換**：漏れの有無に関わらず、**2 年ごと**に新品へ交換してください。
- **リコイルスターターの確認**：ロープのほつれ・戻り不良を点検してください。
- **各ボルトの増締め**：初回 20 時間運転後、その後は 100 時間ごとに各部のボルト・ナットを点検し、必要に応じて増締めしてください。
- **冷却フィンの清掃**：50 時間ごと（汚れがひどい場合は随時）、エンジンの冷却フィンに付着したホコリ・草・泥などを取り除いてください。

長期保存（1 ヶ月以上）のしかた

① 燃料を抜く

燃料タンクおよびキャブレター内の燃料を完全に抜いてください。

② シリンダー内へ注油する

点火プラグを取り外し、シリンダー内へエンジンオイル**約 5 mL** を注入してください。リコイルスターター（始動ロープ）を 2～3 回ゆっくり引いてオイルを行き渡らせた後、点火プラグを取り付けてください。

③ 圧縮点で保管する

リコイルスターター（始動ロープ）をゆっくり引き、重くなった位置（圧縮点）で止めて保管してください。これにより、シリンダー内部への湿気の侵入を抑えることができます。

④ エアータンク内の圧縮空気を抜く

エアータンク内の圧縮空気を完全に抜き、ドレンコックを開きタンク内の水分を排出してください。

⑤ 屋内で保管する

直射日光や雨を避け、湿気の少ない風通しの良い屋内で保管してください。

13. トラブルシューティング（エンジンが始動しない場合）

故障かな・・・？と思ったら

① エンジンスイッチ・燃料の確認

- ・ エンジンスイッチが「ON (I)」になっているか確認してください。
- ・ 燃料コックが「OPEN (開)」になっているか確認してください。
- ・ 燃料タンクに十分なガソリンが入っているか確認してください。

※長期間保管した古いガソリンや、水・異物が混入したガソリンは使用しないでください。

② チョークレバーの確認

- ・ 冷間始動時はチョークレバーを「左」にしてください。
- ・ 暖機後や再始動時はチョークレバーを「右」にしてください。

※チョークを閉じたまま使用すると、燃料のかぶりやエンジン不調の原因になります。

③ 点火プラグの確認

- ・ プラグキャップが確実に取り付けられているか確認してください。
- ・ 点火プラグの汚れ、カーボン付着、摩耗がないか確認してください。
- ・ 点火プラグが燃料で濡れている場合は乾燥させてから再度取り付けてください。
- ・ 火花が飛ばない場合は点火プラグを新品と交換してください。

④ 燃料供給の確認

- ・ チョークレバーを「左」にしてリコイルスターター（始動ロープ）を数回引き、点火プラグ先端が濡れるか確認してください。
- ・ プラグが乾いている場合は、燃料フィルターやキャブレターの詰まりが考えられます。
- ・ 燃料ホースの折れ・詰まり・漏れがないか確認してください。

⑤ エアークリーナーの確認

- ・ エアークリーナーが汚れていると始動しにくくなります。
- ・ エレメントを清掃し、著しく汚れている場合は交換してください。

⑥ エンジンオイルの確認

- ・ エンジンオイルが規定量入っているか確認してください。
- ・ オイルが著しく劣化している場合は交換してください。

⑦ 圧縮の確認

- ・ リコイルスターター（始動ロープ）を引いたときに適度な抵抗（圧縮）があるか確認してください。
- ・ 圧縮が弱い場合は、点火プラグの締付け不足やエンジン内部の異常が考えられます。

14. トラブルシューティング②（エンジンが始動しない場合）

故障かな・・・？と思ったら

⑧ 始動方法の確認

- ・ リコイルスターター（始動ロープ）を軽く引き、抵抗を感じた位置から勢いよく引いてください。
※軽く引くだけでは始動しない場合があります。
※エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを「右（開）」へ戻してください。

⑨ 燃料のかぶり

次のような場合は燃料が濃くなり始動できないことがあります。

- ・ チョークレバーを「左」にしたまま何度も始動を繰り返した。
- ・ 始動後もチョークレバーを「左」にしたまま使用した。

【対処方法】

1. チョークレバーを「右」にしてください。
2. 点火プラグを取り外して乾燥させてください。
3. リコイルスターター（始動ロープ）を数回引き、燃焼室内の燃料を排出してください。
4. 点火プラグを取り付け、再始動してください。

⑩ 気温が低い場合

- ・ 冬季は始動しにくくなることがあります。
- ・ チョークレバーを「左」にし、1分程度、暖機運転を行ってからチョークレバーを「右」にし使用してください。

⑪ 長期間使用しなかった場合

- ・ キャブレター内部のガソリンが劣化・詰まりを起こしている場合があります。
- ・ 燃料を交換しても改善しない場合は、キャブレターの清掃・点検が必要です。

予防方法

- ・ 長期間使用しない場合は、燃料コックを閉じてエンジンが自然停止（エンスト）するまで運転し、キャブレター内のガソリンを使い切ってください。
- ・ 古いガソリンは使用せず、新しいレギュラーガソリンを使用してください。
- ・ 燃料カップ・燃料フィルターは定期的に清掃してください。

15. トラブルシューティング③（コンプレッサー）

故障かな・・・？と思ったら

① エアーに水が混じる

- タンク内にドレン（水）が溜まっていないか確認してください。
- 湿度の高い時期は、タンク内にドレンが溜まっていなくても圧縮空気に多くの水分が含まれるため、エアーに水が混じる場合があります。必要に応じて、水分除去装置（エアドライヤー・フィルターなど）をご使用ください。

② エアー工具の力・圧が弱い

- エアーを充填し、レギュレーターの設定圧力が低くなっていないかを確認してください。
 - レギュレーターが付いていない吐出口で改善するか確認してください。使用するエアー工具に合わせて調整してください。
- ※レギュレーターなしの吐出口を使用する際は、エアー工具の使用最高圧力を超えないよう十分注意してください。

③ 圧力が上がらない・充填に時間がかかる

- ドレンコック（排水バルブ）が確実に閉じているか確認してください。
- ホース・カプラ・吐出口・各接続部からエアー漏れがないか確認してください。
- エアーフィルター（コンプレッサー用）が目詰まりしていないか確認し、汚れている場合は清掃してください。
- 安全弁からエアーが漏れていないか確認してください。

※改善しない場合は、内部部品の摩耗や故障が考えられます。使用を中止し、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。

④ 圧力が変化してもエンジン回転が切り替わらない

- タンク内圧力が約 0.98 MPa に達しても低速回転にならない場合、または約 0.78 MPa まで低下しても高速充填を開始しない場合は、自動制御部の異常が考えられます。
- 調整部には触れず、使用を中止し、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。

⑤ 運転音・振動が大きい

- 本製品が平坦で安定した場所に設置されているか確認してください。
- ボルト・ナットに緩みがないか確認し、必要に応じて増締めしてください。
- 冷却ファンやシリンダーユニット周辺に、異物が付着・接触していないか確認してください。

※異常音や振動が改善しない場合は、内部部品の異常が考えられます。直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。

16. トラブルシューティング④（コンプレッサー）

故障かな・・・？と思ったら

⑥ エアーを使用していないのに圧力が下がる

- ホース・カプラ・吐出口・ドレンコック・各接続部からエアー漏れがないか確認してください。
- エアー工具やホースを取り外した状態でも圧力が下がるか確認してください。
- 安全弁やチェックバルブ（逆流防止弁）から漏れている場合は、使用を中止し、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。

※充填直後は、圧縮空気の温度が下がることにより、圧力がわずかに低下する場合があります。ただし、短時間で大きく低下する場合は、エアー漏れなどの異常が考えられます。

⑦ 吐出口からエアーが出ない

- エアータンク内に圧縮空気が充填されているか確認してください。
- レギュレーターの設定圧力が低くなっていないか確認してください。
- エアーホースが折れたり、つぶれたりしていないか確認してください。
- エアーホースやカプラが確実に接続されているか確認してください。

⑧ 規定圧力より高い（低い）場合

△通常使用時は調整部には触れないでください。

調整部を操作すると、設定圧力やエンジンの自動制御が正常に動作しなくなる場合があります。

規定圧力

- 最高圧力：約 0.98 MPa（エンジンが低速回転になります）
- 高速充填圧力：約 0.78 MPa（エンジンが高速回転で充填を開始します）
- 圧力調整はお客様では行わず、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。

約 0.98 MPa を超えても圧力が上昇し続けたり、安全弁が作動した場合は異常です。重大な事故につながるおそれがありますので、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。

⑨ 安全弁から連続してエアーが漏れる

- 直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。
- 危険ですので、安全弁の調整は行わないでください。

△ 警告

約 0.98 MPa を超えても圧力が上昇し続けたり、安全弁から連続してエアーが排出される場合は異常です。重大な事故につながるおそれがありますので、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社までご相談ください。

17. 検査・点検記録表（定期点検）

検査項目	検査日付	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
コンプレッサー（シリンダーユニット）							
エアータンク点検							
ホース・カプラー点検							
圧力計点検							
防振ゴム点検							
冷却フィンの清掃							
各ボルトの増締め							
エアークリーナーの清掃(コンプレッサー用)							
安全弁・リリーフバルブの確認							
タンク内の水抜き							
エンジン（EX13）							
エンジンオイルの交換							
点火プラグの清掃・調整							
エアークリーナーの清掃(エンジン用)							
燃料カップの清掃							
燃料フィルターの清掃							
燃料パイプの交換							
リコイルスターターの確認							
冷却フィンの清掃							
各ボルトの増締め							
本体損傷の有無							
異常音・その他							
検査担当者							